

実践研究会を開催!

令和4年度実践研究会のご案内に誤字がありました。「故→子」の誤りでした。改めましてお詫びの上訂正させていただきます。

令和5年2月18日(土)第14回実践研究会を北方町ホリモク生涯学習センター会議室Aで開催することが出来ました。今年もコロナ禍で開催が危ぶまれる中「**道德教育を更に充実させるために!**」例年は発表者2名で行っていましたが諸事情により、本巣市を代表して真桑小学校・松田美幸(ヨシキ)教諭にお願いすることになりました。参加者は7名と少なかったですが、白木和雄校長先生が応援に加わってくださり、充実した実践研究会となりました。

10時、大野琴美副会長(一色小)の参加者への気遣いを感じさせる温かい進行で始まりました。

まずは、森山政紀会長の挨拶です。

「いつもより時間に余裕がありますので、長めのご挨拶をお許しいただきます。私は、東京で9年間教員生活をした後、受験年齢制限最後の年に、新採に混じり岐阜県教員採用試験に合格しました。最初の勤務地は、可児市政が誕生したばかりの帷子(カビラ)小学校でした。2年目に可児市が文部省(当時)道德教育研究指定地に選ばれ、『学校代表で行ってこい』と言われたことが岐阜県道德教育研究会とのご縁が出来たきっかけです。2校目は福寿小学校でしたが、羽島市も道德教育研



究指定地でした。中学校区の道德推進組織がしっかり機能している印象でした。盛んな理由の一つに『道德に理解のある』企業があることを知りました。それが長谷虎紡績株式会社の長谷虎治社長でした。その著書『幸せの種を捲き、人を育てる』にある通り『モラロジーに基づく』経営理念の実践でした。強い感銘を受けました。そして、私自身がモラロジーを知る契機となりました。(中略)

現在は公益財団法人モラロジー道德教育財団となり、創立100年に向けて様々な活動を展開しております。『道德で人と社会を幸せに』は、私が大切にしたいと心がけている生き方の指針でもあります。続いて、参加者全員の自己紹介が和やかに進められました。

自他を大切にし、よりよく生きる子の育成 ～思いやり 感謝 勤労～

発表者:本巣市立真桑小学校 松田 美幸 教諭

松田先生は、本巣市並びに真桑小学校の道德教育推進を担う立場から、実践内容を紹介してくださいました。

「中学校から変わったばかりの私には、貴重な体験となりました」と謙虚に語るお人柄には、教師が力を合わせ、着実な児童の成長を見届けることが出来たとの確信を感じさせてくれました。

ここでは『二つの道德学習指導案』の取組を要約してみました。



「4年A組で資料『琵琶湖のゴミ拾い』を使い授業をしました(6月)
 主題名：気持ちよく働く(勤労) おじいさんがゴミ拾いをしている姿からどんなことを思ったかを問います。多様な思いを受け入れつつ、いくら拾ってもきりが無いのにどうしておじいさんは出来るのかを、考え議論しました。「議論する」とは「多様な考えに共感すること」と捉えています。ノートにまとめ、ペアで交流し、全体で話し合いました。『琵琶湖を美しくきれいにしたい。おじいさんを見習いたいから』進んで働こうという主人公を通して、展開後段では4つの視点で自己を振り返ります。①今日の道徳で学んだこと(道徳的諸価値の理解)、②仲間と議論して思ったこと(物事を多面的・多角的に考える)、③これまでの自分はどうか(自己を見つめる)、④これからどうしていきたいか(自己の生き方について考える)です。この授業では生活の中で進んで働いている写真を提示したことが活かしたように思います。

4年B組で資料『ブラッドレーの請求書』を使い授業をしました。(12月) 主題名：家族のために出来ること(家族愛) 主人公が母親にお手伝いの請求書を出した気持ちを話し、その後全て無償の母親の請求書を見た主人公の気持ちを考え、議論しました。夏休みの職員道徳研修会で学んだことを活かして、私が授業をしました。児童が深く考え議論する姿を見せてくれ、学年当初からの成長を感じました」



(会場風景)

参加して下さった先生方からは、貴重なご質問やご感想をたくさんいただき活発な会になりました。誠に有難うございました。



神原重典監査 久しぶりに学校の先生方のお話を聞く会に参加しました。真桑小学校が道徳教育に力を入れてよく頑張ってくださったことを松田先生の発表で知りました。誠に有難うございました。

森山政紀会長 振り返りで4つの視点を考えているのですが、これは児童が自分で選択して行っているのですか。段階的に教師が指定することもありますが、自己選択が出来てこそ、力が伸びると思います。



土川恵美校長先生(本田小) 「3文で話そう」と児童に息の長い発言を本校でも日常的に指導しています。今年度「自己をみつめる」ことに児童の課題を感じていましたので、振り返りの「4つの視点」は参考にしたいと思いました。



白木和雄校長先生 真桑小の先生方が道徳科の授業を中心に道徳教育の実践に自信をもって取り組むようになりました。これは講師の河合宣昌先生が自ら模擬授業をしてくださる等の懇切丁寧なご指導によるもので、深く感謝申し上げます。

林 明夫顧問から指導助言をいただきました。

「松田先生が道徳教育の素晴らしい実践者であり、真桑小が着実な研鑽により家庭・地域社会の信頼を得ている実績がよく分かる発表でした。しっかりした全体計画の下、声かけも活発な地域の土地柄と相まって児童のよりよい成長を促しているという成果を感じ取ることが出来ました。



授業に絞ると、資料選びは重要です。人生の羅針盤・人生如何に生きるかの砥石・具体的な生きる鏡とも言います。資料分析の要は授業を通して児童の心に端的な言葉で何を残せるかです。例えば、『ブラッドレーの請求書』ならどんな言葉が児童の心に残るとよいのでしょうか…。母の無償の請求書に涙した主人公の心を通して、『家族は助け合うのが当たり前』という言葉が共有出来たなら、価値を深めたことになるのではないのでしょうか」

最後に森山会長のお礼の言葉で閉会となりました。【文責：森山】関係各位のご支援・ご尽力に対しまして、深く感謝申し上げます。